

早稲田大学 21 世紀 COE 「現代アジア学の創生」 最終成果報告 概要

拠点リーダー

早稲田大学政治経済学術院 毛里和子

2007 年 3 月 31 日

## 目次

早稲田大学 21 世紀 COE「現代アジア学の創生」最終成果報告 概要.....	1
資料Ⅰ シリーズ「東アジア共同体の構築」 .....	15
資料Ⅱ 英文論文集 Contents.....	20
資料Ⅲ Working Paper List.....	21
資料Ⅳ 博士学位授与者一覧 (2002-2006 年度) .....	25
Final Summary Report on Outcomes of The 21st Century COE Creation of Contemporary Asian Studies, Waseda University .....	29
Reference I : Contents of Japanese Outcome .....	38
Reference II :Contents of English Outcome .....	40
Reference III : List of Working Papers.....	41
Reference IV : List of Recipients of Doctoral Degrees (FY2002-2006) .....	45



## 早稲田大学 21 世紀 COE 「現代アジア学の創生」 最終成果報告 概要

### 目次

- COE-CAS 「現代アジア学の創生」 の狙い
- われわれの立場 地域とは？ 地域は作られる
  - 現代アジア学の立脚点
    - 現代東アジアの “asian-ness”
- 東アジア共同体研究グループ EACRG の研究
- 東アジア共同体研究グループ EACRG の観察 ①
- 東アジア共同体研究グループ EACRG の観察 ②
- 東アジア共同体研究グループ EACRG の観察 ③
- 東アジア共同体研究グループ EACRG の観察④
- COE-CAS の形に残る成果 ① 研究成果
- COE-CAS の形に残る成果 ② 人材育成
- COE-CAS の形に残る成果 ③ アジア主要大学との教育ネットワーク
  - COE-CAS の経験から ①--地域研究の新地平に向けて
- COE-CAS の経験から ②---情報の共有化、公共財としてのデータ

早稲田大学に結集する現代アジア研究者 20 名あまりは、2002 年 11 月から 2007 年 3 月まで、研究・教育のナショナルな拠点形成を支援するための日本文部科学省の 21 世紀 COE の一つに採択され、研究プロジェクト「現代アジア学の創生」に挑戦してきた。ほぼ 5 年にわたる共同研究と教育の成果は豊富かつ多面的だが、本報告書（概要版）では、われわれの意図、研究内容、研究・教育上の具体的成果などを整理し、外部レフェリーの評価に委ねたいと思う。

### ■ COE-CAS 「現代アジア学の創生」 の狙い

#### 地域研究のブレーク・スルー

地域研究のブレーク・スルーをめざす「現代アジア学」への挑戦を通じて、われわれは二つのことを問うてきた。一つは、「アジア」となにを指すか、地理的空間か、思想的場か、実体のある地域なのか、虚像としてのそれなのか、である。もう一つは、「現代アジア」を解析する際の方法、切り口の開発である。われわれは、21 世紀に入って新地域--「アジア」が、単なる地域的空間でも思想的場でもなく、実体のあるトータルな地域として登場してきたと認識し、その上で、その「新アジア」の分析が、これまでの各国別の地域研究のたんなる積み上げ、諸ディシプリンのたんなる加算によって可能なかどうかを問い、ホリスティックなアジアを解明する上で有効な手法を開発したいと考えてきた。

## 東アジア共同体のデザイン

もっとも、こうした手法の開発には、具体的な「被験者」が必要である。そこで、「現代アジア学の創生」は、研究の深化のための第一ステップとして、「東アジア共同体」をデザインするために議論を深めてきた。東アジアの地域化や地域主義、「東アジア共同体」を構想する試みが、ここでいま生じている大きな変化をもっともよく映しているからであり、現代アジアの新たな方法による解明なしに、状況を捉えきれないし、ましてや近未来を構築することはできないという意味で、「現代アジア学」の最良かつ格好の研究対象だからである。

ともあれ、われわれが共有するのは、今日、アジア内部の違いを射程に入れた、新たな「一つのアジア」論を必要としているとの認識に他ならない。

## ■ われわれの立場 地域とは？ 地域は作られる

では、なぜ「一つのアジア」論が必要なのか。なぜならわれわれは、地域は所与のものとして存在するのではなく、鉛筆で描き、また消しゴムで消せるような伸縮する「創発性」を内包しているとする理論的前提にたっているからである。「地域とはなにか」については、大別して次の三つの立場がありうるが、COE-CAS チームは、国際関係論からの「関係の集積として地域ができる」との認識を共有するに至った。

### 「世界単位」論から

地域とはそれ自体が存在意義をもっているような範囲、もっとはっきり言うと、そこでは住民が共通の世界観をもっているような範囲【高谷好一「地域とはなにか」1993】

### 「アジア経済学」から

どこかで永続的な固有性を長期持続させている、ある地理的範囲人々がそこに対して帰属意識をもちつづけている対象としての世界単位【原洋之介『エリア・エコノミクス』1999】

### 国際関係論から

①域内の類似か域外との差違かではなく、関係性として地域を認識する。地域認識を内的同質性やら均質性やらで捉えようとする方法に限定する狭い態度を棄てるべきである。関係によって地域は作られ、伸び縮みする。【山影進『対立と共存の国際理論』1994】

②地域は「国際地域公共圏」である。地理的な実存としての地域と、「関係に裏付けられた制度や規範のもとで相互作用や一定の了解を共有する地域国際社会」は区別される。【張寅性「近代東アジア国際社会の公共性と“万国公論”」2004】

## ■ 現代アジア学の立脚点

「現代アジア学の創生」に挑戦してきた COE-CAS は、「現代アジア学」の立脚点として次の 3 点を確認しておきたい。

第一、21 世紀に入ってグローバリゼーションのなかで内発的要請と欲求からアジアがトータ

ルな地域として出来てきていること、とくに東アジアが新地域形成のプロセスにあるということを確認し、「一つのアジア」を解明する学問を開発、確立すべきである。

第二、そのアジアに対して、研究をする側と研究される側がはっきり区別される「他者研究」ではなく、アジアの中からの「自者研究」の立場に立つ。

第三、「現代アジア学」が成り立つ所以は、 現段階までアジアが歴史・伝統を共有してきただけでなく、むしろアジアのメンバーにある目標・課題の共通性にある。近代において、アジアはそれぞれに欧米に直面もしくは支配され、それに対応もしくは対抗してきた歴史を共有してきた。また戦後のアジアは、欧米へのキャッチアップ、後進性からの一日も早い脱却など、その目標を共有してきた。さらに 21 世紀に入ってグローバリゼーションの荒波を受け、ナショナリズムとリージョナリズムで対応する志向を共有している。

## ■ 現代東アジアの “asian-ness”

アジアの政治・経済・社会・国際関係の特徴づけるものとしての「アジア性」を次のように設定する。なお、ここでいうアジアは実際には東アジアを意味するが、南アジアがそれ自体固有の特性をもっていること、および COE-CAS チームに南アジア研究者を含められなかったという実際の事情のためである。

- ① 欧米との対比で東アジア政治/社会が共有すると仮設できる「公領域と私領域の相互浸透」、政府および政府党体制と企業・経済の関係（政経不可分）。
- ② 欧米社会関係の“契約”に対比できる「関係性」ネットワークをアジア性解明の一つの切り口に設定する。市民革命を経験しなかった東アジア諸国が、近代に共有してきた歴史的経路と、現代の課題がもたらしたものである。
- ③ 東アジアのひとびとが共有すると仮設できる政治文化や権力観、つまり集団主義と温情/依存、パトロン/クライアント関係の存在。
- ④ アジア生成の歴史プロセスに規定されて、アジア社会、アジア地域関係は濃厚なハイブリッド性を有する。そのことは、ことなる文化、ことなる価値に対する寛容性、包容力という、アジアに共通する特徴をもたらしている。
- ⑤ 主権国家の形成過程で地域形成を求められているアジア諸国の国際関係は、ASEAN Way（普遍的規範、意思決定の方式、外交アプローチ、「アジア的価値観」）に示されるように、アジア的特色をもたざるを得ない。
- ⑥ 東アジアの新地域形成では、非力な ASEAN 諸国が主導的役割を果たしている。この点は、国家アクターとパワーを重視する現実主義者 realists の理解を越えるものだが、国際関係は社会的に構成される認識の体系からなるとみる構成主義者 constructivists には想定可能である。東アジアの試みは、国際政治理論に新しい素材を提供し、アジア型国際関係理論への可

能性を開いている。

## ■ 東アジア共同体研究グループ EACRG の研究

### 研究の重点

われわれはプロジェクト途中から、「東アジア共同体研究グループ」EACRG を立ち上げ、共同研究の重点を「東アジア共同体の構築」に学術的に寄与する研究、東アジア共同体の学術的デザインに集中した。次の四研究チームが集中的研究を重ねた。

- I 新たな地域形成（代表：山本武彦・天児慧）
- II 経済共同体への展望（代表：浦田秀次郎・深川由起子）
- III 国際移動と社会変容（代表：西川潤・平野健一郎）
- IV 図説-東アジア・ネットワーク解析（代表：毛里和子・森川裕二）

研究成果は、執筆者合計 35 名からなる（シリーズ東アジア共同体の構築）全 4 巻として、同上のタイトルで岩波書店から刊行中である（2006 年 12 月～2007 年 9 月）

### 成果の特徴

第一に、100 名近い若手研究者を総動員した IV チームが、狭義の東アジア 13 カ国、関係域外国 6 カ国の計 19 カ国の経済、政治、軍事、社会、文化各分野の諸関係について膨大なデータ・情報を集積し、それを数量化した上で、社会学のネットワーク理論を援用して東アジアの地域形成の現段階を確定する作業を行った。名実ともに、わが国で初の試みであり、はじめての成果である。

第二に、東アジアにおける望ましい共同体のコンセプトを、①国家、諸国民、そこに住む「ひとびと」のコミュニティ、②グローバリゼーションのもとでの特徴ある地域化としてコミュニティは、ある領域は共同の場、ある領域では共同の家、ある領域は共同の砦を目指す、多層型コミュニティとなる、③それぞれのナショナリズムが複雑に交錯する東アジアであるからこそ、地域共同作業が不可欠であり、「地域公共財は地域が提供する」というコンセプトが共有されるべきである、と確定した。

## ■ 東アジア共同体研究グループ EACRG の観察 ①

研究チーム EACRG の中心は、東アジアの地域形成を測定する「図説・東アジア・ネットワーク分析」チームである。1980 年代～2004 年までの 25 年間、狭義の東アジア（ASEAN+3）、関係域外国 6 カ国（インド・ロシア・モンゴル・オーストラリア・ニュージーランド・米国）の合計 19 カ国を対象に、政治領域、安全保障領域、経済領域、社会・文化領域での諸関係をすべて数値化して、東アジアの地域形成の度合いを検討した。

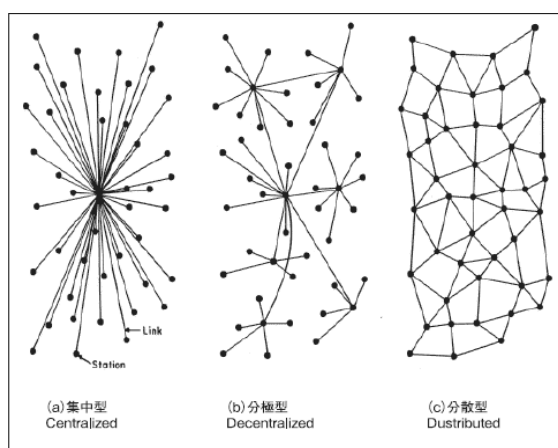
東アジアでは、地域の構成要素である単位（unit）、境界（boundary）、関係（relations）の 3 つ

がそれぞれ、変動を繰り返している。こうした不定形の東アジアについて、「中心」と「境界」の変動に着目し、経済的な交流関係だけでなく、軍事政治、社会文化領域を含めた地域ネットワーク（「複合ネットワーク」）形成のプロセスに接近したのが、EACRG の研究の特色のひとつである。とくに、地域内であらゆる二国間交流関係を数量化し、さらに数値解析（「ネットワーク解析」）を試みることにより、東アジア地域関係について、次のような観察を得た。

- ① 軍事政治領域をのぞいて、1990 年代後半以降、東アジア地域に「複合ネットワーク」構造が見て取れる。特に、社会・文化領域では、経済の域内相互依存の深化と密接に関わり合いながら、地域大的交流が進んでいる。
- ② 東アジアではネットワークは非階層的な「分散型」に移行しつつあるが、軍事・政治領域では、依然、少数が交流の起点となる階層的構造をとる「分極型」と非階層的「分散型」の中間に止まっている。
- ③ だが、東アジアの諸関係は全領域を考慮すれば、域内の関係の深化とともに、域外への広がりという二つのベクトルが観察でき、その意味で東アジアの境域はまだ不定形である。
- ④ 狭義の東アジア・ネットワークにおいても、中心の移動や中心の複数化の傾向がみられ、関係は定まっていない。
- ⑤ 経済の事実上の統合を受けて、社会文化領域での地域化、東アジア化が政治領域に先行して観察できる。経済共同体から政治共同体へ、そこから社会・文化共同体という、通常の機能主義的アプローチとは違うプロセスが進む可能性を秘めている。

## ■ 東アジア共同体研究グループ EACRG の観察 ②

### 【ネットワーク・パターン図】



出所：Baran (1964)

Baran, Paul” Memorandum RM-3420-PR, On Distributed Communication: I . Introduction to Distributed Communications Network,” RAND Corporation, pp1-2.1964



さまざまな関係によって形作られているネットワークとしての東アジア地域は、どのように一体化し深化しているのか。

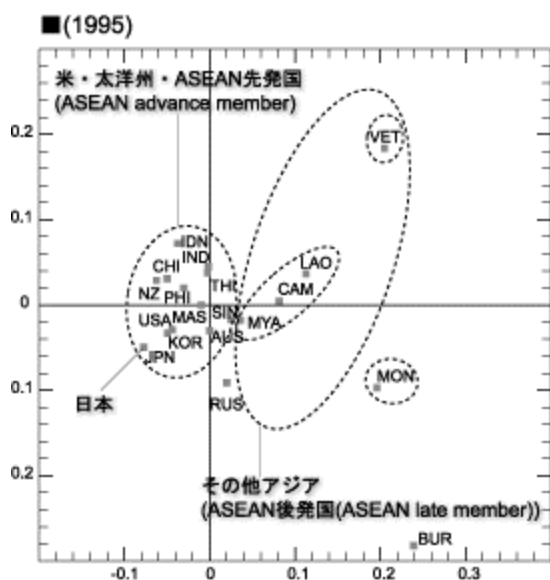
この問いに対し、EACRG は、情報処理系ネットワークから 3 つのモデル（上のネットワークパターン図）を提起し、分類した。具体的には、交流関係を線と点で単純に表現した地図のほか、結合度や中心性の測定、地域関係を数値処理し視覚化した「関係の布置」、政治・経済・社会／文化各領域間の相関関係など、各種の分析を行った。これらの分析結果から、東アジア地域は、特定の国が交流の中心になる「分極」型（パターン図・中央の b）と、中心が特定しにくい「分散」型（同右端の c）という 2 つのネットワーク構造が混在しながら、拡大・深化している現状が明らかになった。基本的な特徴としては、政治・安全保障領域では b 型から c 型への方向、経済領域では c 型、社会・文化領域では c 型のネットワークを観察できた。

なお、ネットワークの枝の本数（地図上の線の数）が増えるほど、b→c へとシフトする、各国（各点）のネットワーク全体の中の役割と影響度を数値化して観察すると、中心性が特定国に偏ることが少なくなり、各国間の中心性格差が小さくなるほど c 型に接近する。

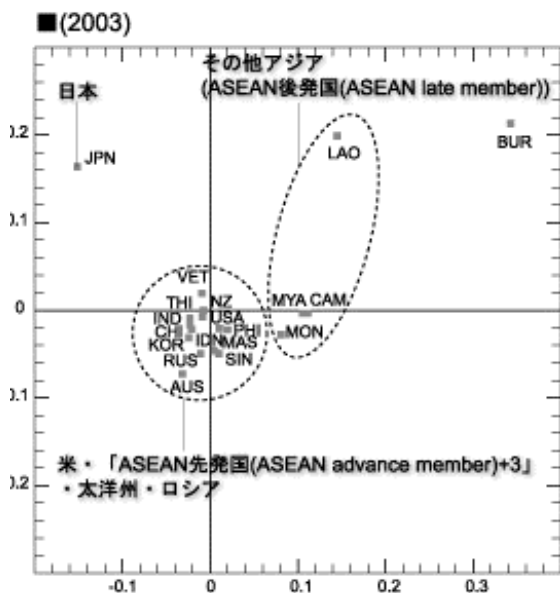
### ■ 東アジア共同体研究グループ EACRG の観察 ③

われわれの解析では、東アジアの二国間関係は、90 年代後半から急激な変化を遂げている。東アジアの二国間関係を数値処理した後、さらに総合化（主成分分析）して座標平面上に表現すると、地域変動の傾向が 95～2003 年に変化したことが分かる。米国・ソ連（現ロシア）が交流の中心に位置し、複数のサブシステムを構成していたそれまでの東アジアでは、冷戦終結とともにサブシステム同士の融合が加速する。95 年以降、ロシア中心のサブシステムは消滅し、日中韓 3 カ国と ASEAN 諸国が急速に一体性を帯びていく。以下の図が示すように、こうした東アジアの急速な融合と凝集の反面で、日本の位置（布置）が、2000 年代に入ると東アジアの中で相対的に後退してきた状況が浮かび上がる。

【ASEAN+3（日中韓）+6（モンゴル・インド・豪州・NZ・ロシア・米国）の関係布置 1995年】



【ASEAN+3（日中韓）+6（モンゴル・インド・豪州・NZ・ロシア・米国）の関係布置 2003年】



■ 東アジア共同体研究グループ EACRG の観察④

東アジアの地域化や地域主義はこれまでの地域主義や地域制度・統合体と、理論的にどう区別されるのか。以下で取り上げているのは、日本の「大東亜共栄圏」に代表される「歴史的アジア

主義」(A)、共同体憲章や「ヨーロッパ市民」を形成しつつあり、もっとも進んだ地域統合であるヨーロッパ統合 (EU) (B)、そして近い将来に「共同体」を構築しようとわれわれがデザインしている「東アジア新地域主義」(C) である。三者を、・地域内関係と構造、・地域たらしめる原理、・外部との関係、・奉ずる価値、・地域たらしめるアイデンティティ、そして・国際システムとしての性格、で区別している。東アジア新地域が向かうだろう「ネオ・ウエストファリアン・システム」では、国家を越えた地域的課題の遂行を通じての、国家主権の地域機構への一部委譲などが含まれる。この問題は、今後アジアの研究者によってさらなる理論化が進められるだろう。

### 地域主義の比較概念図

	歴史的アジア主義(A)	ヨーロッパ統合(B)	東アジア新地域主義(C)
構造	覇権・垂直型	水平型・対称性	水平型・非対称性
原理	権力型	社会型	権力/社会型
対外関係	対抗的	共生的	開放的
価値	一元	共通	多元
アイデンティティ	文化アイデンティティ	政治/文化 アイデンティティ	市場アイデンティティ
国際システム	帝国秩序	ポスト・ ウエストファリアン	ネオ・ ウエストファリアン

### ■ COE-CAS の形に残る成果 ① 研究成果

COE-CAS の具体的な、目に見える成果の第一は、研究成果であり、それは以下の 3 種類の日英語による出版物で学界および社会に還元される。

#### 出版成果物

##### 〈シリーズ東アジア共同体の構築〉

第一巻 山本武彦・天児慧編 『新たな地域形成』 2007 年 6 月刊行予定

安全保障、政治領域での実態的、理論的分析

第二巻 浦田秀次郎・深川由起子編 『経済共同体への展望』 2007 年 3 月刊行

デ・ファクトに進む東アジア「経済統合」についての部門別研究、その制度化のための展望

第三巻 西川潤・平野健一郎編 『国際移動と社会変容』 2007 年 9 月刊行予定

東アジアで進む「地域化」につき、歴史、人の交流、市民社会の地域連携などを中心に現状を確定し、将来展望する。

#### 第四巻 毛里和子・森川裕二編 『図説 ネットワーク解析』 2006 年 12 月刊行

狭義の東アジア 13 カ国+域外関係国 6 カ国の 1980 年～2004 年までの、政治安全保障、経済、社会文化の 3 分野の関係の深化を社会学のモデルで分析したもの

本シリーズは、すでに 2006 年 12 月から岩波書店から刊行されており、2007 年 9 月に全 4 巻の刊行が完成する（各巻の内容構成は、資料 I 参照）。

Mori Kazuko/Hirano Kenichiro eds., *A New East Asia: Toward a Regional Community*, NUS Press, Singapore, 2007

執筆者は、COE-CAS のメンバー他、COE-CAS の国際シンポジウムに参加したアジアの著名な研究者、計 10 名。日本による国際的成果として世界でも高い評価を受けるだろう。（contents は、資料 II 参照）

#### Working Papers 47 Vols.

うち、英文は 34 冊、中文は 1 冊、英文/日文は 2 冊。CR、RA など若手研究者によるものは 14 冊。（各 vol の筆者・タイトルは、資料 III 参照）

### ■ COE-CAS の形に残る成果 ② 人材育成

COE-CAS の目に見える成果の第二は、次世代研究者の養成である。COE 活動中、拠点の大学院生を中心に多数の若手研究者を組織し、あるいは on the job training を行い、かれら自身の研究能力および企画・組織能力を開発し、人材を育成してきた。具体的には多数の博士号取得者、現代アジア学 院生フォーラムの組織化、次世代国際研究大会の定例化などが上げられる。また、COE-CAS 拠点にはアジアからの留学生多数が含まれており、本拠点から「現代アジア学」の若手人材が世界に飛び立っていくことだろう。なお、院生フォーラム・次世代国際研究大会など若手研究者育成プログラムは、COE-CAS 終了後、本学アジア研究機構の事業として継承される。

#### 5 年間の博士号取得者（2002 年 4 月～2007 年 3 月）

取得者 34 名（研究科：政治学：2、経済学：2、社会科学：4、法学：4、アジア太平洋：22）

申請中 1 名（政治学）

うち留学生 19 名（56%）

（博士号取得者名、所属、論文タイトルは、資料 IV 参照）

#### 就職（CR/RA の経験者、博士課程修了者、2007 年 4 月現在）

本学助手	6 名
本学教員	2 名
他大学教員	1 名
その他研究機関	3 名

### 現代アジア学 院生フォーラム

首都圏大学院	15 校	登録者	138 名 (うち早大は 68 名、うち留学生は四分の一)
フォーラム主催研究会			34 回
フォーラム年次研究集会			4 回

### 現代アジア研究 次世代国際研究大会

第一回	2005 年 1 月	現代アジア学のフロンティア	参加者 105 名 (うち外国人 20 名)
第二回	2006 年 1 月	現代アジア学の構築をめざして	参加者 110 名 (うち外国人 22 名)
第三回	2007 年 1 月	アジア—多様性の共同体を問う	参加者 112 名 (うち外国人 25 名)

## ■ COE-CAS の形に残る成果 ③ アジア主要大学との教育ネットワーク

2006 年から、本 COE を推進した本学政治学研究科、アジア太平洋研究科と COE-CAS 自体のアジア主要大学との教育ネットワークが形成されてきており、それを以下に図示しよう。これが、目に見える成果の第三である。

COE-CAS は、本学アジア太平洋研究科、政治学研究科の「魅力ある大学院イニシアティブ」事業と共同して、アジア地域の主要大学、主要研究者と、研究・教育上のネットワークを形成し、人材養成と交流のアジア規模でのシステムを形成しつつある。「大学院教育のアジア化」であり、人材という地域公共財を地域が提供する、という COE-CAS のコンセプトの実践でもある。具体的には次の三つのプログラムを推進した。

#### ① 「海外連携型プロジェクトの有機的展開」(アジア太平洋研究科「イニシアティブ」と共同)

COE-CAS のメンバーである白石昌也教授が取組責任者となり、インターンシップ型、フィールドリサーチ型、ワークショップ型の異なる 3 つのタイプの国際協働プロジェクトを実施した。2006 年度の実績でいえば、修士課程をメインにしたインターンシップ型とフィールドリサーチ型ではデ・ラ・サール大学や南開大学、復旦大学、延世大学と、博士後期課程をメインにしたワークショップ型では北京大学、仁川大学、南開大学、北京大学、高麗大学と、それぞれ共同で作業を行った

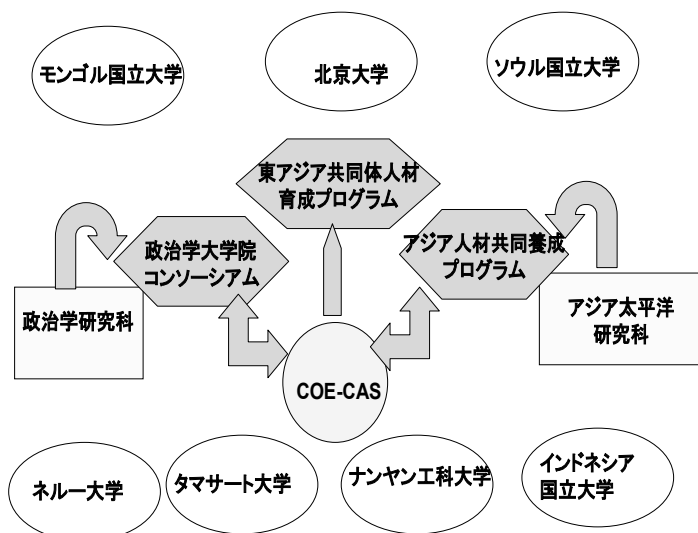
#### ② 「アジア主要 5 政治学研究大学院コンソーシアム」(政治学研究科「イニシアティブ」と共同)

COE-CAS のメンバーである坪井善明教授のイニシアティブのもと、キム・ベン・ファー(マハティール研究所)、アミタフ・アチャリア(ナンヤン工科大学)、ナカリン・クトライラット(タマサート大学)、パルヴェール・アローラ(ジャワハラール・ネルー大学)、チャンウック・パク(ソウル国立大学)とアジア各地の政治に関する共同講義の実施可能性について議論をし、2006 年 11 月にはソウル国立大学で「アジアで学ぶ政治学」大学院生会議が開かれた。同会議には、早稲田大学、ソウル国立大学、タマサート大学以外にも、復旦大学、香港大学、高麗大学で政治学を学ぶ大学院生が集まり、それぞれの研究体制や研究テーマ、方法論について情報を交換し合った。

### ③「東アジア共同体構築を目指す人材育成のための共同プログラム」(COE-CAS)

本プログラムは、2006 年 8 月のサマーセミナーの開催・実施を担当した。同セミナーは、「アジアの統合と協力」をキーテーマとし、社会、経済、政治・外交の領域でどのような統合・協力が可能なのか、統合・協力を阻害する要因はどこにあり、どのように克服すべきかについて、座学とエクスカージョン、それに公開シンポジウムへの参加を通じて学生一人一人に考えてもらうよう工夫した。同セミナーには、早稲田大学の 20 名の学生以外に、アジア各地の 13 の大学（オーストラリア国立大学、チュラロンコン大学、デ・ラ・サール大学、香港大学、高麗大学、神戸大学、国立暨南大学、モンゴル国立大学、シンガポール国立大学、ソウル国立大学、北京大学、清華大学、インドネシア国立大学）から院生が 2 名ずつ参加した。

#### COE-CASを中核としたアジアの人材養成プログラム 2006



#### ■ COE-CAS の形に残る成果 ④ 早稲田大学アジア研究機構の創設など

目に見える成果の第四は、COE-CAS の活動を全学的な研究組織および教育カリキュラムに制度化することができた点である。COE-CAS の研究・教育活動は、幸いなことに、全学的にアジア研究・教育を推進する組織である「早稲田大学アジア研究機構」を生み出すことができた。この機構は、本学の二つの COE（COE-CAS および人文科学系のアジア地域文化エンハンシング研究センター）の諸活動とその資産を継承し、発展させることになる。

また、COE-CAS の蓄積をもとに、2007 年度から、大学共同利用法人・人間文化研究機構と当アジア研究機構との間で「現代中国研究拠点」が共同設置されることとなり、早稲田大学は 6 拠点を束ねる幹事拠点となる。さらに、教育面では、政治学研究科などが中核となって、研究科横断の「現代アジア学」にかかわる講座・ゼミなどが、本学オープン教育センターのもとに、正規カリキュラムとして常設されることになった

**早稲田大学アジア研究機構の組織 2006 年 4 月発足**

機構長	奥島孝康（前総長・法務研究科教授）
事務組織	機構長・職員 4 名（専任職員 2 名、専任スタッフ 2 名）
専任研究者	6 名（専任教授 1 名、助教授 1 名、助手 3 名、2007 年度採用予定--教授 1 名）
運営委員	16 名（早稲田各研究科などに所属する専任教員）
研究施設	早稲田大学 9 号館 9 階約 250 m <sup>2</sup> （機構長室・研究室・会議室・助手室） 早稲田大学 28 号館（重点研究施設として準備中）
研究予算	年間約 5000 万円（2006 年度）（除管理費・人件費）
研究事業	研究プロジェクトの推進、研究セミナー、諸外国との研究・教育ネットワーク形成
成果発信	和文誌 『ワセダ・アジアレビュー』（年 2 回）、
英文学術誌	Waseda Journal of Asian Studies
次世代養成	COE-CAS「現代アジア学院生フォーラム」・次世代国際研究大会プログラムの継承

**大学院共通カリキュラム**

大学院横断ゼミ	「現代アジア研究」	2004 年度～2006 年度
アジア研究機構組織	「現代中国研究」	2007 年度～
政治学研究科組織	「講義・現代アジア研究」	2007 年度～

**■ COE-CAS の経験から ①--地域研究の新地平に向けて**

COE-CAS は、地域研究のブレーク・スルーをめざす、学際・新領域分野のプロジェクトである。最後に、われわれの 5 年来の研究・教育活動から次のような点を「今後の課題」として残したい。

**理論的突破の必要性**

アジアをトータルに分析する視座、方法論の開発と錬磨が求められる。豊かな発展を経験しつつあるアジアから社会科学・人文科学への理論的寄与が可能になっている現在、アジア研究者、地域研究者の連携がとりわけ求められている。だが、大学間での競争を通じた大学別拠点形成（21 世紀 COE、Global -COE）がそのための最適な方式であるかどうかについては、研究者や研究・教育機構による真摯な検討が必要だろう。

**人材のナショナルな、しかし柔軟な集中的育成の課題**

世界で活躍できるアジア研究者、地域研究者を育てるには、少なくとも次のような training center などがあるのが望ましいと考える。

- field work training center
- language training center

on the job training center 国際共同研究

academic network COE-CAS 「現代アジア学院生フォーラム」 の経験

### 国際発信と国際化の課題

とりわけ、次世代研究者は、日本の研究者としてだけではなく、グローバル・レベルのアジア研究者・地域研究者として早くから国際化する必要がある。そのためには、国際学会でのパネル組織・報告、国際 Journal への論文掲載、成果・News Letter の発信、外国人研究者の教育スタッフへの招聘などが求められる。

### ■ COE-CAS の経験から ②---情報の共有化、公共財としてのデータ

もう一つの重要な課題として、われわれは作業プロセスで、現代アジアに関する、依拠できる、またコモン・スタンダードをもつ各分野の情報・データが極端に不足している事実と直面したが、この点は、アジア研究者・研究機関が今後埋めるべき重要な「空白」である。

2007 年 2 月京都大学地域研究統合情報センター・シンポでは次の点が確認された。

「データベースの構築から地域研究が始まり、データベースの構築を超えて情報学の知見に依拠した研究によって普遍化する。そして普遍性から個別性にもどる」(桜井由躬雄・東大人文社会科学系研究科)

「情報はコモンズ(公共財)である。情報に効率的にアクセスできる必要がある」(田中耕司・京都大学)

COE-CAS 「東アジア図説ネットワーク解析」の経験は次の点を浮き彫りにした。

われわれは、作業過程で、非経済領域での価値中立型 value-free 情報の取得・作成の必要性和困難さを痛感した。たとえば、姉妹都市は、日本では、①両首長による提携書、②交流分野が特定のものに限定されない、③なんらかの予算措置、議会の承認があることと定義づけられているが(自治体国際化協会 CLAIR2005)、中国では、①国家外交(国家総体外交)の一部、②改革開放・経済発展を目的とする、③中国全体の統一性重視と規定されており(中国国際友好城市联合会「管理規定」2005)、整合性に向け、統計化に向かない。地域的な共通化がアジア全域で行われる必要がある。

COE-CAS から具体的に次の点を提案したい。

情報の収集と Data の生産のために、アジア地域の若手研究者(国籍は問わない)による共同作業を推進するプロジェクトである。以下のような作業を行う。

- ・統一した情報の規格・定義
- ・共同作業(域内分業)によるデータ収集
- ・共通手法に基づいたデータ編集
- ・透明な情報開示



### アジア規模の意識調査による知見。

実際、COE-CAS のメンバーである園田茂人が行ってきた社会学的実践は、今後のアジア地域研究にとって示唆に富む。すなわち同教授は、猪口孝・中央大学教授を中心に行われている「アジアバロメーター」（文部科学省科学研究費特別推進研究）にコミットし、アジア規模での意識調査のデータベース化、共有化を進め、自ら科研費や外部資金を利用してアジアの階層比較や日系企業の従業員意識比較を行う一方で、アジア規模での比較を志す学生を組織して「海外ゼミ」を実施し、そこでデータ作成の困難と重要性、データ共有後の解釈枠組み作成の難しさと重要性を教えている。

そもそも、定義を統一しないと質問票の作成が出来ないし、データを対外的に公開しなければ、アジアでの超域的研究はむずかしい。そのため、どうしてもデータアーカイブが必要となってくるが、どのような質問がアジアにとって意味があるか、そもそもどのような比較が可能かは、アジアの英知を集めないことには答えがでない。

比較による回答結果の解釈は、複数の社会を理解する重要な方法論でありながら、今までのアジア研究は、量的データを軽視し続けてきた。量的データだけでなく、質的データの蓄積も大切だが、今後は調査プロセスのアジア規模での共有化も、重要な研究上のアジェンダとなるであろう。

COE-CAS は、新たな「一つのアジア」論を生み出そうとする大きな課題を抱えたがゆえに、こうした方法論的突破が必要であることを痛感させる、大変に意義あるプロジェクトであった。

## 資料 I シリーズ「東アジア共同体の構築」

### 第 1 巻 新たな地域形成（山本 武彦、天児 慧・編）

#### 総論：「東アジア共同体」を設計する—現代アジア学へのチャレンジ

毛里 和子（早稲大学政治経済学術院教授）

#### 第 1 部：地域サイト

##### 第 1 章：ASEAN 体験と東アジア

黒柳 米司（大東文化大学法学部教授）

##### 第 2 章：メコン・サブ地域の実験

白石 昌也（早稲田大学大学院アジア太平洋研究科教授）

##### 第 3 章：中国の地域外交と東アジア共同体—多元的・重層的な地域協力関係の構築

青山 瑠妙（早稲田大学教育総合科学学術院助教授）

##### 第 4 章：韓国の共同体構想と安全保障—「不戦の共同体」の陥穽

倉田 秀也（杏林大学総合政策学部助教授）

##### 第 5 章：日本の「東アジア共同体外交」と共同体構想—二国間主義と多国間主義の間

山本 武彦（早稲田大学政治経済学術院教授）

#### 第 2 部：イシュー

##### 第 6 章：アジアの中のナショナリズムとリージョナリズム

天児 慧（早稲田大学大学院アジア太平洋研究科教授）

##### 第 7 章：ASEAN 地域フォーラム（ARF）の課題—非伝統的安全保障問題がもたらす矛盾と逆説—

佐藤 考一（桜美林大学国際学部教授）

##### 第 8 章：東アジアの新地域形成と「地方」

多賀 秀敏（早稲田大学社会科学総合学術院教授）

##### 第 9 章：政治発展と地域主義：ASEAN 諸国を中心に

坪井 善明（早稲田大学政治経済学術院教授）

##### 第 10 章：北東アジアのエネルギー資源外交—「エネルギー安全保障のジレンマ」と地域協力の可能性

堀内 賢志（早稲田大学 COE「現代アジア学の創生」研究員）

#### 第 3 部：理論

##### 第 11 章：地域主義の理論と「東アジア共同体」

山本 吉宣（青山学院大学国際政治経済学部教授）

##### 第 12 章：ASEAN と安全保障共同体—構成主義からのアプローチからの理解

アマタフ・アチャリヤ（シンガポール・南洋工科大学教授）

第 13 章：東アジアにおける非伝統的安全保障と地域協力—国際移民、人身売買、エイズ、鳥インフルエンザ問題を中心

赤羽 恒雄（米国・モンレー国際関係研究所東アジア研究センター所長）

2007 年 6 月刊行予定

## 第 2 巻 経済共同体への展望（浦田 秀次郎、深川 由起子・編）

はじめに—「東アジア経済共同体」は実現可能か

総論：東アジア広域協力の現状と課題—東アジア経済共同体設立へ向けて—

浦田 秀次郎（早稲田大学大学院アジア太平洋研究科教授）

### 第 1 部：部門横断的分析

第 1 章：貿易と直接投資

トラン・ヴァン・トゥ（早稲田大学社会科学総合学術院教授）

松本 邦愛（早稲田大学社会科学部研究科）

第 2 章：日本企業のビジネスモデルと日中経済

木下 俊彦（早稲田大学国際教養学部教授）

第 3 章：東アジアにおける景気の連動と波及—一時系列と国際産業連関表による分析—

高橋 克秀（神戸大学経済学部助教授）

第 4 章：グローバル・インバランスとアジア経済

谷内 満（早稲田大学商学研究科教授）

### 第 2 部：分野別分析

第 5 章：アジア金融システムとコーポレート・ガバナンス改革

首藤 恵（早稲田大学ファイナンス研究科教授）

第 6 章：東アジアの環境管理における後発性利益と国際環境協力

田口 博之（国土交通省離島振興課長）

第 7 章：エネルギー問題の現状と協力枠組み

武石 礼司（富士通総研主任研究員）

第 8 章：東アジアの農業・食料問題—貿易の自由化と地域協力—

弦間 正彦（早稲田大学社会科学総合学術院教授）

第 9 章：東アジア経済共同体と後発国

トラン・ヴァン・トゥ（早稲田大学社会科学総合学術院教授）

第 10 章：東アジアに接近するインド経済

小島 眞（拓殖大学国際開発学部教授）

- 第 11 章：自由貿易協定（FTA）の制度的収斂と東アジア共同体  
深川 由起子（早稲田大学政治経済学術院教授）

2007 年 3 月刊行

### 第 3 巻 国際移動と社会変容（西川 潤、平野 健一郎・編）

総論：東アジア協力展開の諸要因—一人々の移動、民主化と新しい地域空間の創出

- 西川 潤（早稲田大学大学院アジア太平洋研究科教授）  
平野 健一郎（早稲田大学政治経済学術院教授）

#### 第 1 部：東アジア共同体の虚実—連続性と創造性

- 第 1 章：東アジア歴史認識問題への挑戦  
劉 傑（早稲田大学社会科学総合学術院教授）
- 第 2 章：日本における「アジア回帰」論の系譜と近隣アジア（1906—2006 年）  
後藤 乾一（早稲田大学大学院アジア太平洋研究科教授）
- 第 3 章：1940 年代アジア学の拡大と変容  
小林 英夫（早稲田大学大学院アジア太平洋研究科教授）

#### 第 2 部：東アジア地域交流と新たな文化の形成

- 第 4 章：アジアにおける人の国際移動—東アジア共同体の原動力  
平野 健一郎（早稲田大学政治経済学術院教授）
- 第 5 章：コリアンの越境—リージョナル・マイグレーションの視座から  
羅 京洙（早稲田大学大学院アジア研究機構助手）
- 第 6 章：留学生の移動と共同体形成  
杉村 美紀（上智大学総合人間科学部講師）
- 第 7 章：東アジアにおける大衆文化の共有—マンガ・アニメの事例から  
白石 さや（東京大学教育学部教授）
- 第 8 章：東アジアにおける国際教育交流と「地域の創造」  
黒田 一雄（早稲田大学大学院アジア太平洋研究科教授）

#### 第 3 部 東アジア地域創造の可能性—新たな空間とアイデンティティ—

- 第 9 章：東アジアの平和と公共空間—市民社会の持つ可能性  
西川 潤（早稲田大学大学院アジア太平洋研究科教授）
- 第 10 章：都市中間層の台頭と新たなアイデンティティの形成  
園田 茂人（早稲田大学大学院アジア太平洋研究科教授）
- 第 11 章：人権レジーム形成と市民社会—下からの東アジア地域共同体の展望  
川村 暁雄（神戸女学院大学助教授）

第12章：民主化と東アジア市民社会—和解から非核地域の形成

李 起豪（韓国平和フォーラム事務総長）

2007年9月刊行予定

**第4巻 図説 ネットワーク解析（毛里 和子、森川 裕二・編）**

はじめに—「つくられる東アジア」

**第1部 基礎データ編**

基礎データ一覧

東アジア関連年表

**第2部 交流編**

**I 経 済**

浮かび上がる東アジア経済共同体

- I.1 経済的相互依存と東アジア
- I.2 貿易・投資主導の発展パターン
- I.3 制度化する東アジア（FTA）
- I.4 国際金融市場と東アジア
- I.5 エネルギー・環境

**II 政 治**

- II.1 政治交流概観
- II.2 東アジアの外交（各国別）
- II.3 軍事・安全保障
- II.4 自治体交流

**III 社会／文化—移動から交流へ**

- III.1 文化と東アジア
- III.2 通 信
- III.3 人の交流
- III.4 「知」の交流—「知の協働」とアジア
- III.5 スポーツ交流

**第3部 解析編—東アジア複合ネットワーク解析**

- 1 東アジア複合ネットワークへの接近
- 2 「関係布置」の解析—東アジア各国の関係・位置
- 3 個別ネットワークの特徴
- 4 四者（日中米+1）間関係（大国間関係と東アジア）

5 ASEAN の緊密化と統合

6 東アジア複合ネットワークの相関解析

**結論 多重化する東アジアネットワーク**

2006 年 12 月刊行

資料Ⅱ 英文論文集 Contents

MORI Kazuko and HIRANO Kenichiro of Waseda COE-CAS, eds.

*A New East Asia: Toward a Regional Community*

Pub. by NUS Press , Singapore, 2007

Contents

Foreword

by HIRANO Kenichiro, Waseda University

Designing an East Asian Community: Challenges to Contemporary Asian Studies

by MORI Kazuko, Waseda University

Multilayered Postcolonial Historical Space: Indonesia, the Netherlands, Japan and East Timor

by GOTO Ken'ichi, Waseda University

Remapping East Asia as an International Society: The Discourses on East Asia and Asian Identity in Contemporary Korea

by JANG In-Sung, Seoul National University

National Identities in East Asia in the Shadow of Globalization

by Gilbert Rozman, Princeton University

Japan and East Asia: How Do We Meet the Globalization Challenge Together?

by YAMAZAWA Ippei, KINOSHITA Toshihiko, C.H.Kwan

The Changing Patterns of International Trade in East Asia

by URATA Shujiro, Waseda University

Chinese Diplomacy in the Multimedia Age

by AOYAMA Rumi, Waseda University

Non-traditional Security Cooperation for Regionalism in Northeast Asia

by Tsuneo Akaha, Monterey Institute of International Affairs

Development and Happiness: Learning to Attain 'Spiritual Wealth' from Asia

by NISHIKAWA Jun, Waseda University

National Identities in East Asia in the Shadow of Globalization

by Gilbert Rozman, Princeton University

## 資料Ⅲ Working Paper List

2007年3月31現在

	Name	Title	Date of Publication
Vol. 1	Kazuko Mori	Integrative and Disruptive Forces in Contemporary China	2003/3
Vol. 2	Ken'ichi Goto	Multilayered Postcolonial Historical Space : Indonesia, the Netherlands, Japan and East Tior	2003
Vol. 3	Kazuko Mori	East Asian Security and Its Non-East Asian Factors	2003
Vol. 4	Satoshi Amako	Political Transition in China Under Economic and Social Reform	2003
Vol. 5	Kenichiro Hirano	Interactions among Three Cultures in East Asian International Politics during the Late Nineteenth Century: Collating Five Different Texts of Huang Zun-xian's "Chao-xian Ce-lue" (Korean Strategy)	2003
Vol. 6	Hideo Kobayashi	Responses of South Korea, Taiwan and Japan to the Hollowing Out of Industry	2003
Vol. 7	Tsuneo Akaha	Non-traditional Security Cooperation for Regionalism in Northeast Asia	2004/01
Vol. 8	Hiroyuki Taguchi	The Post-crisis Exchange Rate Management in Selected East Asian Countries- Flexibility of Exchange Rate and Sensitivity to Inflation Rate ?	2003
Vol. 9	Nishikawa Jun	Development and Happiness - Learning the "Spiritual Wealth" from Asia -	2004/03
Vol. 10	Hideo Kobayashi	THE RISE OF CHINA AND THE TRANSFORMATION OF THE ASIAN ECONOMY	2004
Vol. 11	Ngo Trinh Ha	Catching-up Industrial Development of East Asian Economies and its Application to Vietnam	2004/03
Vol. 12	Eiji Murashima	第二次世界大戦期間の日泰同盟及泰国華僑	2005/01



Vol. 13	Masaya Shiraishi	The Nan'you Gakuin: A Japanese Institute in Saigon from 1942-1945	2004/11
Vol. 14	Masaya Shiraishi	The Vietnamese Phuc Quoc League and the 1940 Insurrection	2004/11
Vol. 15	Seung Hyok LEE	Shifting of Japan's National Security Norm And the Issue of North Korean Abduction of Japanese, 2002-2004	2004/11
Vol. 16	AOYAMA Rumi	Chinese Diplomacy in the Multimedia Age: Public Diplomacy and Civil Diplomacy	2004/12
Vol. 17	AOYAMA Rumi	Ambivalent Images of the United States	2005/02
Vol. 18	Yoshiharu Tsuboi	Government, Party, Military and Business Relations in Vietnam: Focusing on a Comparison with China	2005/02
Vol. 19	Yoshiharu Tsuboi	Future Development of Japan – Vietnam Relations	2005/02
Vol. 20	Yoshiharu Tsuboi	Corruption in Vietnam	2005/03
Vol. 21	Nishikawa Jun	Human Beings and Development – Toward a World where Every Life can Live Together. The Way of Endogenous Development –	2005/03
Vol. 22	Eiichi Motono	The Change of Historical Character of Anglo-Chinese Joint Firms in Late Qing and Early Republican China, 1860 to 1927	2005/05
Vol. 23	Shinichi Tanigawa	The Cultural Revolution and Educational Stratification: Revolution in Education Revisited	2005/07
Vol. 24	李 京錫	アジア主義の理念及びその成立の客観的基礎 －尾崎秀美の東亜協同体論を手がかりに－	2005/12
Vol. 25	加藤 恵美	国際移動者の市民性－イギリスの統合アプローチを例に	2005/07
Vol. 26	堀内 賢志	1990年代における中露国境地域間協力とロシア極東の地方政府－中央・地方関係の観点から－	2005/07
Vol. 27	Katsuyuki Takahashi	The Peace Movement in Thailand after the Second World War: The Cases in Bangkok, the Provinces, and Local Chinese Society	2005/08

Vol. 28	Hideo Kobayashi	Imperial Japan and Total War System	2006/01
Vol. 29	Yoshiharu Tsuboi	The Unique Character of Nationalism in Asian Countries and Cultural Policies for Avoiding Conflicts	2006/02
Vol. 30	Shujiro Urata	The Changing Patterns of International Trade in East Asia	2006/10
Vol. 31	倉田 徹	東アジア文化の構築	2006/12
Vol. 32	平川 幸子	40 代日本人の中国観を探るー「ジャパン・アズ・ナンバーワン時代」の若者たちは、中国が苦手？ー	2006/12
Vol. 33	金 燦錫	東アジアの共通情報基盤と相互理解	2006/12
Vol. 34	Ken'ichi Goto	Japan's Southern Policy in the Interwar Period and Hayashi Kyujiro	2006/12
Vol. 35	Shigeto Sonoda	New Middle Class in Confucian Asia: Its Socio-cultural Background and Socio-political Orientations in Comparative Perspective	2006/12
Vol. 36	徐 顕芬	日本・中国における日中関係研究レビュー（1990-2005 年）	2007/1
Vol. 37	KAZUO KURODA	International Student Mobility for the Formation of an East Asian Community	2007/1
Vol. 38	大内 哲也	国際的人権保障体制とアジアの地域的人権保障	2007/1
Vol. 39	野口 真広	台湾人から見た台湾総督府ー 適応から改革へ向かう台湾人の政治運動についてー	2007/1
Vol. 40	森川 裕二	東アジアの地域変動ーCOE-CAS 政治交流データの応用と分析適用可能性の検証ー	2007/1
Vol. 41	AOYAMA Rumi	China's Public Diplomacy	2007/2

Vol. 42	Mitsuhide Shiraki	Role of Japanese Expatriates in Japanese Multinational Corporations: From the Perspective of the “Multinational Internal Labor Market”	2007/2
Vol. 43	Yoshiharu Tsuboi	20 Years After Doi Moi Policy	2007/2
Vol. 44	Kazuko Mori	New Relations between China and Japan: A Gloomy, Frail Rivalry	2007/3
Vol. 45	Kenichiro Hirano	Professor Schwartz’s Influence on the Japanese Studies of Yan Fu in Japan	2007/3
Vol. 46	Kazuko Mori	Designing an East Asian Community : Challenges to Contemporary Asian Studies	2007/3
Vol. 47	毛里 和子	早稲田大学 21 世紀 COE 「現代アジア学の創生」最終成果報告概要	2007/3

## 資料Ⅳ 博士学位授与者一覧 (2002-2006年度)

No.	研究科	取得年度	氏名	論文題目
1	政治学研究科	2002	楊 志輝	吉田書簡の再検討-戦後日本外交の出発-
2	政治学研究科	2005	石井 知章	中国社会主义国家と労働組合 -中国型政治協商体制の成立課程
3	経済学研究科	2004	三田 剛史	河上肇研究 日中経済思想交流史からの考察
4	経済学研究科	2005	四方田 雅史	太平洋経済圏とアジアの経済発展
5	社会科学研究科	2005	田口 博之	The East Asian Currency Crisis and Exchange Rate Management (邦題: 東アジアの通貨危機と為替政策)
6	社会科学研究科	2005	武石 礼司	アジア諸国における環境対応と産業発展
7	社会科学研究科	2005	堀内 賢志	1990年代におけるロシア極東地域の地方政府の対外協力と中央地方関係- ハバロフスク地方、沿海地方における対中国関係を中心として -
8	社会科学研究科	2006	兼田 麗子	留岡幸助と大原孫三郎の社会思想- 日本近代化過程における社会改良実践の一考察 -
9	法学研究科	2002	顧 祝軒	中国における民事法の継受と「動的システム」- 日中両国の法継受に関するアプローチの再検討 -
10	法学研究科	2002	劉 迪	近代中国における連邦主義思想
11	法学研究科	2005	沈 軍	中国の都市建設における土地問題 -蘇州を中心に

12	法学研究科	2006	胡 光輝	中国における国際商事仲裁制度の比較法的研究
13	アジア太平洋研究科	2003	阪本 公美子	Social Development, Culture and Participation: Toward theorizing endogenous development in Tanzania
14	アジア太平洋研究科	2003	高橋 孝代	沖永良部島のアイデンティティと境界性
15	アジア太平洋研究科	2004	サヌシ ザイナル アビディン	Technology Transfer and the Role of Coordination: Case of Japanese Firms in Malaysia
16	アジア太平洋研究科	2004	ゴー ハー チン	Catching-up Industrial Development in East Asia
17	アジア太平洋研究科	2004	ウエレニ タライボサ	Ecotourism Development in the South Pacific Islands: A sustainable alternative for mass tourism in Fiji islands
18	アジア太平洋研究科	2004	帰 泳涛	Restoring the Dialogue with Japan-Edwin O. Reischauer and the U.S.-Japan Intellectual Relations
19	アジア太平洋研究科	2005	上原 美鈴	香港ファミリービジネスの所有と経営
20	アジア太平洋研究科	2005	舟田 京子	インドネシアマレーシア両国独立後の言語能力に関する史的考察
21	アジア太平洋研究科	2005	ヒメネス エレガ カロリーナ	Understanding modern charismatic leadership: Hugo Chavez and the Peaceful Revolution in Contemporary Venezuelan Politics
22	アジア太平洋研究科	2006	施 華強	Non-Performing Loans Resolution: The Case of China
23	アジア太平洋研究科	2006	本多 美樹	国連による経済制裁と人道上の諸問題:「スマート・サンクション」の模索
24	アジア太平洋研究科	2006	ホスニ フッセン	Strategic Human Capital Management and Innovation in the Malaysia's Public Sector: A Study of Five Agencies under the Ministry of Finance

資料IV 博士学位授与者一覧 (2002-2006年度)

25	アジア太平洋 研究科	2006	チェイ ナ ヴ ッ ト	Toward an Effective International Development Assistance: Grassroots Level Community in Cambodia
26	アジア太平洋 研究科	2006	ファン シー ピン ケ ビン	Outsourcing from Evolutionary Economics Perspective: The Impact of Economic Change and Technology
27	アジア太平洋 研究科	2006	王 元	中華民国の権力構造における帰国留学生—南京国民政府(1928~1949)を中心として
28	アジア太平洋 研究科	2006	菅野 敦志	台湾における文化政策と国民統合(1945~1987)—「脱日本化」・「中国化」・「本土化」をめぐる史的考察—
29	アジア太平洋 研究科	2006	玉腰 辰己	日本映画の国際展開に関する研究 日中映画交流と川喜多長政・徳間康快の対応
30	アジア太平洋 研究科	2006	Albena Vidinova Simeonova	Japan Through Russian Eyes(1855-1905) - Intellectuals' Viewpoints-
31	アジア太平洋 研究科	2006	鈴木 弥生	バングラデシュ農村における援助と社会開発—ミッター県にみる居住者へのインパクト—
32	アジア太平洋 研究科	2006	Md Monir Hossain Moni	Japanese Foreign Direct Investment(FDI) in South Asia: Necessity and Rationale for an Evolving New Role Shouldered by Multinational Corporations(MNCs) in the Challenging Epoch of Globalization
33	アジア太平洋 研究科	2006	王 伝洋	Policy Issue, Stages, and Policymaking: Analysis on Policymaking Process of Japan's First Yen Loan to China
34	アジア太平洋 研究科	2006	Song Wei	American Hegemony and Postwar Regional Integration: The Evolution of Interest and Strategy

\* 審査中 1名

	政治学研究科		石田 徹	近代移行期における日朝関係刷新交渉の研究—国交刷新をめぐる日朝双方の論理—
--	--------	--	------	---------------------------------------



## Final Summary Report on Outcomes of The 21<sup>st</sup> Century COE Creation of Contemporary Asian Studies, Waseda University

Kazuko Mori, Program Leader  
Graduate School of Political Science, Waseda University  
March, 2007

### Contents

- Objectives of the COE-CAS “Contemporary Asian Studies”
  - Our Stance: An Area Is Something that Can be Formed
  - Standpoints of Contemporary Asian Studies
  - The “Asian-ness” of Contemporary East Asia
- The Results of the East Asian Community Research Group: EACRG
  - Observations of EACRG 1
  - Observations of EACRG 2
  - Observations of EACRG 3
  - Observations of EACRG 4
- Tangible Outcomes of COE-CAS 1: Research Results
- Tangible Outcomes of COE-CAS 2: Development of Human Resources
- Tangible Outcomes of COE-CAS 3: Building Academic Networks through Major Universities in Asia
- Tangible Outcomes of COE-CAS 4: Establishment of the Organization for Asian Studies, etc.

The Center of Excellence-Contemporary Asian Studies (COE-CAS) was selected as one of the prominent programs adopted under the 21<sup>st</sup> COE program of the Ministry of Education, Cultures, Sports and Technology, which ran from November 2002 to March 2007, for the purpose of creating national Centers of Excellence in research and education. There were 22 members from Waseda University involved in this project. The outcomes of the five years of collaborative research and education are abundant and broad ranging. In this summary report, however, I will outline the team’s intentions and research contents, as well as the specific accomplishments of the research and education, and will leave it to outside referees to make a final evaluation of the program.

#### ■ Objectives of the COE-CAS “Contemporary Asian Studies”

##### Toward a Breakthrough in Area Studies

In taking on the challenge of creating “Contemporary Asian Studies” in order to achieve a breakthrough in Area Studies, our research team has dealt with two themes. The first is the question of what “Asia” indicates, i.e., whether it is a geographical space, a field of thought, an area as substance, or a fictional image. The second is the development of methodology and perspectives that should be applied when “contemporary Asia” is analyzed. As we enter the 21<sup>st</sup> century, we make the assumption that the new area, “Asia,” is not simply a regional area or a field of thought, but is something that has emerged as a substantial, total area. On the basis of this assumption, we have evaluated whether or not the traditional method – the simple accumulation of country-based area studies, or addition of disciplines – can be continuously applied to the analysis of the “new Asia,” and have worked to develop effective methodologies to unravel Asia as a whole.

##### Designing an East Asian Community

Developing a new methodology, however, requires concrete “subjects” of examination. As the first step, therefore, we deepened our discussions within “Contemporary Asian Studies” on the design of an “East Asian Community.” The regionalization and regionalism of East Asia and the attempt to design an “East Asian Community” are the best reflections of the tremendous change that is taking place today, and it is impossible to grasp the current situation, let alone to project the near future, without interpreting contemporary Asia using a



new methodology. Thus, we understood the designing of an “East Asian Community” as the most suitable research task for “Contemporary Asian Studies.” At any rate, as a common ground we recognize today the necessity for a new “unified Asia” theory, while differences within Asia must also be taken into account.

#### ■ Our Stance: An Area Is Something that Can be Formed

Why, then, is a theory of a “unified Asia” necessary? It is because we start from the assumption that an area does not exist as a given, but is built from a “creativity” that is elastic, and that can be drawn with a pencil and erased with an eraser. Roughly speaking, the following three perspectives can be used for determining “what an area is,” but the COE-CAS team shares the view, from the theory of international relations, that “an area is formed as the accumulation of relations.”

##### From the Theory of “World Unit”:

An area is a realm that has its own *raison d’être*. More clearly stated, it is a realm in which the residents seem to share the same worldview (Yoshikazu Takaya, *Chiiki to ha nani ka* (What Is an Area?), 1993).

##### From “Asian Economics”:

An area is a geographical realm where an eternal uniqueness is continuously sustained. It is a world unit as an object to which people maintain a sense of belonging (Yonosuke Hara, *Area Economics*, 1999).

##### From the Theory of International Relations:

1) To regard an area not as familiarity within it, or unfamiliarity outside of it, but as relations. We should abandon the narrow-minded attitude of the limited approach that sees an area as an internal homogeneity or uniformity. An area is formed through relations, and it expands and contracts (Susumu Yamakage, *Tairitsu to kyozon no kokusai riron* (International Theory of Conflicts and Coexistence), 1994).

2) An area is a “public sphere with an international area.” A geographical, substantial area is distinguished from “a regional international society that shares the interaction and common recognition under the system and rules supported by relations” (Jang In-Sung, “Kindai higashi ajia kokusai shakai no kokyosei to ‘bankoku koron’” (Publicness and International Consensus in Modern Asian International Society), 2004)

#### ■ Standpoints of Contemporary Asian Studies

The COE-CAS team that took on the challenge of creating “Contemporary Asian Studies” confirmed the following three points as the standpoints of “Contemporary Asian Studies.”

First, under globalization, we see that Asia has emerged as a total area, and that East Asia, in particular, is in the process of formation of a new area that stems from internally generated demand. Entering the 21<sup>st</sup> century, we should develop and establish studies that unravel this “unified Asia.”

Secondly, our research on that Asia will not be based on the perspective of “research of the other,” which clearly distinguishes the observed from the observer, but we will position our task as “self-research” from within Asia.

Thirdly, the reason it is possible to create “Contemporary Asian Studies” is not only due to the fact that Asia has a shared history and tradition, but also because of the shared objectives and tasks amongst its members. In the modern era, Asian countries shared a history of confronting or being ruled by the West, as well as one of dealing with or fighting back against them. After WWII, Asian countries also shared the common goals of trying to catch up with Europe and the U.S., or departing from the sense of being backward as early as they could. Moreover, as they entered the 21<sup>st</sup> century and were tossed by the storm of globalization, they also came to share a leaning toward nationalism or regionalism.

#### ■ The “Asian-ness” of Contemporary East Asia

As a characteristic of politics, economics, societies, as well as international relations in Asia, we adopt the following definition of “Asian-ness”:

1) In comparison to the West, we can hypothesize “a mutual interpenetration of the public and private realms” in Asian politics/society, and a relationship between the government/governmental parties and enterprises/economy (inseparability of politics from economics)

2) We adopt networks of “relations” as a perspective for unraveling Asian-ness as a counterpart to

“contracts” as a means to elucidate Western societies. These networks are an outcome of the historical path and current tasks facing Asian nations, which never went through bourgeois revolutions.

3) We assume that Asian peoples share the existence of political cultures and views of authority, i.e., group mentality and compassion/dependency, or the presence of patrons/clients relations.

4) As a result of the historical process of the formation of Asia, Asian societies and regional relations share a strong hybrid-ness. This leads to the shared Asian characteristic of tolerance toward different cultures and different values.

5) The international relations between Asian nations required for area formation during the building process of sovereign nations must adopt Asian characteristics, such as those revealed by the “ASEAN Way”: universal norms, decision-making processes, diplomatic approaches, and “Asian values.”

6) In the process of new area formation in East Asia, a leading role has been played by ASEAN nations, which have relatively little power. This point is difficult to understand from the perspective of realists who place emphasis on the state actors as well as power, but can be seen as natural from the perspective of constructivists who claim that international relations consist of a system for the recognition of social constructions. The experiment of East Asia is providing international politics with new resources, and widening the potential for an Asian-style theory of international relations.

## ■ Results of the East Asian Community Research Group (EACRG)

### Focus of the Research

During the project, our team organized the “East Asian Community Research Group” (EACRG), and focused on collaborative researches for academic contributions to “designing an East Asian Community.” The following four research groups conducted intensive researches continuously.

I. Formation of a New Region (leaders: Takehiko Yamamoto / Satoshi Amako)

II. Outlook for the Economic Community (leaders: Shujiro Urata / Yukiko Fukagawa)

III. International Migration and Social Transformation (leaders: Jun Nishikawa / Kenichiro Hirano)

IV. Illustrated-Analysis of East Asian Networks (leaders: Kazuko Mori / Yuji Morikawa)

The research results of these studies were published (in Japanese) by Iwanami Shoten under the same titles, as *Series for Designing an East Asian Community, Vol. 1-Vol. 4*, written by 35 writers (from December 2006 to September 2007).

### Characteristics of the Outcomes

First, nearly one hundred young researchers were mobilized under research group IV (Illustrated-Analysis of East Asian Networks) to carry out a project to elucidate the present stage of East Asian region formation. They adopted the **network theory of sociology**, i.e. collected data and information on the economy, politics, military, society as well as culture, from 19 countries (13 countries from East Asia in the strict sense), and six outside of the region, and quantified them. This was, both in deed and name, a first attempt in our country, and thus a pioneering accomplishment.

Second, the project concluded that the ideal concepts for community in East Asia should be: 1) a community of the states, peoples, and “individuals” living there; 2) be a community that intends to have multiple fragments; that is, in some ways act as a common “forum,” in others a common “home,” and at still others a common “fortress,” in order to retain its forum as a unique regionalization under globalization; (3) a community that nurtures collaborative works at the governmental level that are indispensable in East Asia where nationalisms are clashing, along with the concept that “regional public goods” should be provided by the “region.”

## ■ Observations of EACRG 1

The main work of the EACRG was the “Illustrated-Analysis of East Asian Networks,” which gauged area formation in East Asia. Data covering 25 years from the 1980s until 2004 were collected from 19 nations,

including those of East Asia in a strict sense (ASEAN + 3), and six outside (India, Russia, Mongolia, Australia, New Zealand, and the U.S.), and the relations between politics, economics, society, and culture were quantified in order to allow the measurement of area formation in East Asia.

The units, boundaries and relations that are the constituent elements of the East Asian area are in constant flux. One of the special characteristics of EACRG's research was that, in consideration of this formlessness of East Asia, our project focused on the changes in the "centers" and "boundaries," and approached area networks ("complex networks") including military, politics and society/culture, and not just economic exchanges. By quantifying exchange relations between two nations within the area, and attempting to apply numerical analysis ("network analysis"), we came to the following observations that well deserve to be pointed out.

1) After the late 1990s, "complex networks" were observed in East Asia, except in the sector of military and politics. Particularly in society/culture, exchanges on a regional scale have been proceeding in close relationship with the deepening of mutual economic interdependence within the region.

2) Networks in East Asia are shifting toward a nonhierarchical "distributed" form, but in the realm of military and politics, they are still somewhere in between a hierarchically-structured "decentralized" model, where a few nations position themselves as the origin of exchanges, and a nonhierarchical "distributed" form.

3) When all realms of exchange are taken into account, however, two directions emerge; one involves a deepening of relations within the area, while the other involves an expansion outside of the area. For this reason, the East Asian region is still without definite form.

4) In the East Asian network in a narrow sense, a trend toward the movement or multiplication of centers can be observed, and the relations are not definite.

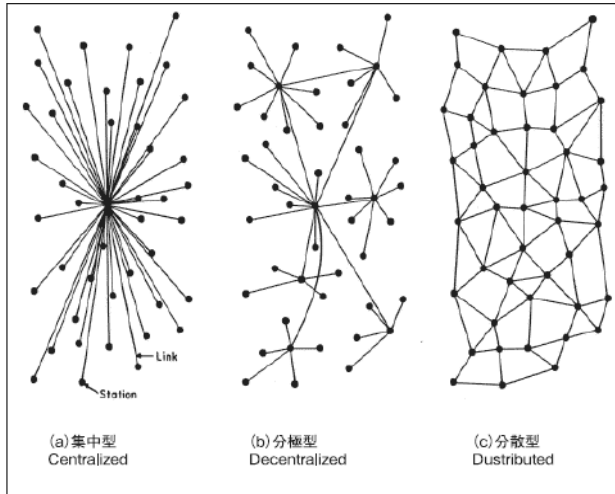
5) Due to the *de facto* economical integration, a process of regionalism or East Asianization is taking place in society and culture in advance of the political realm. This hints at the possibility that a different process is taking place than the usual functionalism, where the order shifts from economic community to political, and then to society and culture.

#### ■ Observations of EACRG 2

How has the East Asia region been unified as a network formed by various relations?

Beginning from this question, EACRG presented three models (illustration of network patterns) from the information-processing network, and categorized the network of East Asia. The group created a map using dots and lines to show the exchange relations. In addition, it analyzed the "relational configuration" by quantifying and visualizing the measurements of degrees of connection, centralities, and area relations, and examined the correlations between the realms of politics, economy, and society and culture. The results of the analysis revealed that East Asia has expanded and deepened by mixing two network structures, i.e., "decentralized" ((b) in the chart, in the center of the illustration), in which specific countries position themselves as centers of the exchange, and "distributed" ((c) in the chart, to the right), in which no center can be easily determined. Generally speaking, a shift from (b) to (c) was observed in the realms of politics and security, and (c) was seen in the realms of economy, as well as society/culture.

**【Illustration of Network Patterns】**



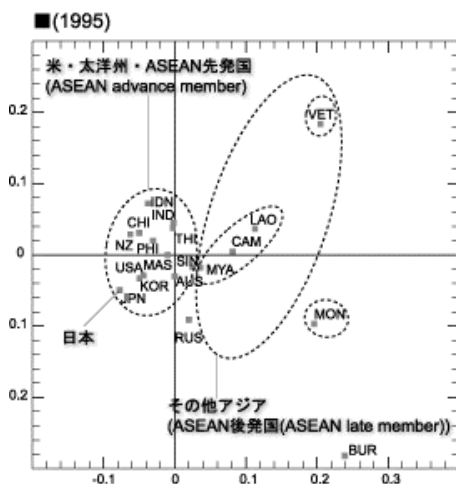
出所：Baran (1964)

Baran, Paul, “Memorandum RM-3420-PR, On Distributed Communication: I. Introduction to Distributed Communications Network,” RAND Corporation, pp. 1-2. 1964.

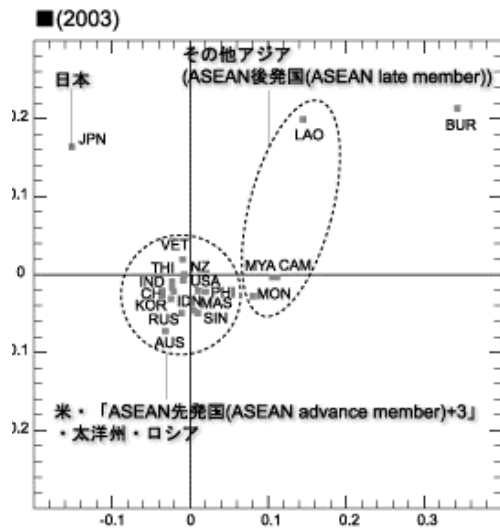
■ Observations of EACRG 3

Our analysis shows that bilateral relations in East Asia have been changing drastically since the late 1990s. When bilateral relations in East Asia are quantified and synthesized (principal component analysis), and then expressed graphically, the data reveals that a change in the trend of regional transformation occurred from 1995 to 2003. East Asia, which was composed of several subsystems, with exchanges being centered around the U.S. and USSR (Russia), began to see the fusion of these subsystems as the Cold War ended. After 1995, the subsystem centered on Russia completely disappeared, and a rapid integration was seen between Japan-China-Korea and the ASEAN nations. In contrast to the rapid integration and aggregation, the analysis also shows that Japan’s position (relational configuration) in East Asia has been weakening since 2000 (see two illustrations above).

**【Relational Configuration of ASEAN + 3+ 6, 1995】**



【Relational Configuration of ASEAN + 3+ 6, 2003】



■ Observations of EACRG 4

How can we theoretically distinguish regionalization or regionalism in East Asia from the past regionalism or regional system/integration? The following table contrasts the [A]“historical Asianism,” represented by Japan’s “Great East Asia Co-prosperity Sphere,” [B]the European Union, which is the most advanced example of a regional union and is in the process of developing a Charter and “citizens of Europe,” and [C]“East Asia New Regionalism,” “the community” we are intending to design in the near future. They are compared and categorized in terms of the structure and relations within the region, the fundamental principle that rules the region, the relationship with outsiders, the values that are supported, the identity of the region, and their nature as international systems. The issue here involves the contents of the “Neo-Westphalian System,” toward which East Asia New Regionalism will likely proceed, and the development of this idea is a future task for Asian scholars (see illustration below).

【Comparison of Regionalisms】

	<b>[A] Historical Asianism</b>	<b>[B] Europe Union</b>	<b>[C] New East Asian Regionalism</b>
<b>Structure</b>	Hegemony/Top-Down	Horizontal/symmetry	Horizontal/ asymmetry
<b>Fundamental principle</b>	Authoritarian	Social	Authority/ social
<b>External relations</b>	Antagonistic	Co-existence	Open
<b>Value</b>	Monism	Shared	Pluralism
<b>Identity</b>	Cultural identity	Political/cultural Identity	Market identity
<b>International system</b>	Empire	Post-Wesphalian	Neo-Westphalian

■ Tangible Outcomes of COE-CAS 1——Research Results

The first tangible outcomes produced specifically by COE-CAS are the research results, and they will be fed back to academia as well as to society through the following three types of publications both in Japanese and in English.

Published Works Based on the Research

*Series Designing an East Asian Community*, Iwanami Shoten, Dec.2006 - Sept.2007

**New Area Formation, Volume 1, Takehiko Yamamoto/Satoshi Amako, eds.**

Concrete, logical analysis in the realms of national security and politics

**Outlook for the Economic Community, Volume 2, Shujiro Urata, Yumiko Fukagawa eds.**

Research on the *de facto* “economic integration” of East Asia in each realm, and outlook for its institutionalization

**International Migration and Social Transformation, Volume 3, Jun Nishikawa, Kenichiro Hirano, eds.**

Confirming the current situation of “regionalization” in East Asia by looking at history, interactions between people, and regional collaboration of civil society, and examining the outlook

**Illustrated-Analysis of East Asian Networks, Volume 4, Kazuko Mori, Yuji Morikawa, eds.**

Analysis, using a sociological model, of the deepening of relations between three realms – politics/national security, economics, and society/culture – in the 13 countries of East Asia in the narrow sense and six outside of the region, from 1980 to 2004

(For more detailed contents of each volume, see Reference I.)

*A New East Asia: Toward a Regional Community,*

Edited by Mori Kazuko and Hirano Kenichiro, NUS Press, Singapore, 2007 (see Reference II for the contents)

*Working Papers, 47 Vols.*

(see Reference III for the author and title of each volume)

■ Tangible Outcomes of COE-CAS 2—Development of Waseda’s Human Resources

The second tangible outcome of COE-CAS is the cultivation of a new generation of researchers. During its activities, the COE organized many young researchers, mainly graduate students, and provided them with hands-on training. By doing so, the program gave participants opportunities to improve their own research and project designing and organizing skills, thus contributing to the development of human resources. The following are specific accomplishments. Human resources that were developed through the program also include many international students from Asia, and the young researchers in “Contemporary Asian Studies” nurtured by the program will most certainly take their place on the world stage.

Recipients of Doctoral Degrees during the Past Five Years (from April 2002 to March 2007)

Recipients 34 (Political Science: 2, Economics: 2, Social Science: 4, Law: 4, Asia Pacific Studies: 21)

In process of application 1

Number of the international students among recipients 19

(See Reference IV for the Ph.D. recipients’ names, schools and titles of dissertation)

Employment (Students with experience as CR/RA, Postdoctoral, as of April 2007)

Research Associate at Waseda University 6

Faculty members at Waseda University 2

Faculty members at another university 1

Other, academic institutes, etc. 3

Graduate Students Forum on Contemporary Asian Studies

Graduate schools in areas around Tokyo: 15, registered students 138 (68 from Waseda)

Study Meetings organized by the Student Forum: 34

Annual Study Conferences organized by the Forum: 4

Next Generation International Research Conference on Contemporary Asian Studies:

1st Annual Conference: January 2005, Frontiers of Contemporary Asian Studies, 105 participants (including 20 foreign nationals)

2nd Annual Conference: January 2006, For the Creation of Contemporary Asian Studies, 110 participants (including 22 foreign nationals)

3rd Annual Conference: January 2007, Asia: Examining the Community of Diversity, 112 participants (including 25 foreign nationals)

■ Tangible Outcomes of COE-CAS 3—Building Academic Networks through Major Universities in Asia

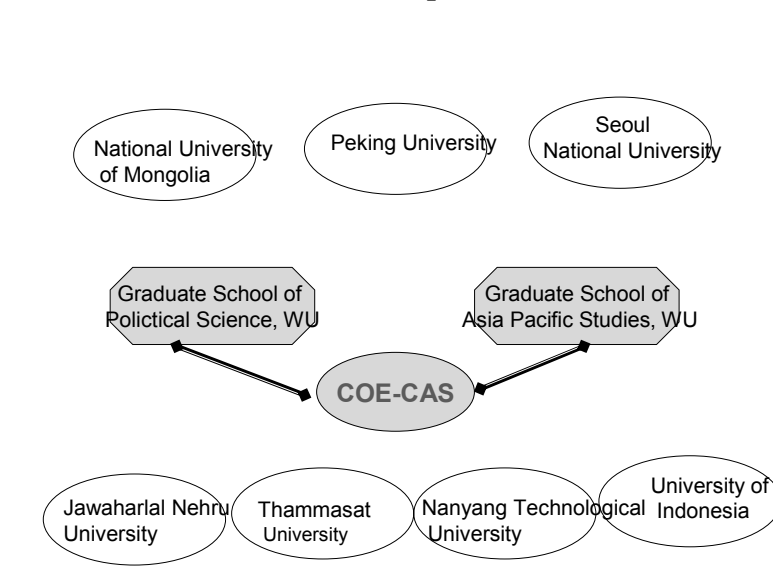
The following chart describes, as of the year 2006, the academic network between the Graduate School of Political Science and Graduate School of Asia Pacific Studies (both of Waseda University), which promoted the COE program, and major universities of Asia who participated in COE-CAS. This is a third tangible outcome. COE-CAS, along with the project, “Initiatives for Attractive Education in Graduate Schools,” led by the Graduate School of Asia Pacific Studies and the Graduate School of Political Science, has been constructing a research/academic network with major universities as well as scholars in Asia, and is in the process of systemizing human resource development and interactions in the region. This is what we term the “Asianization of graduate education,” and the process is in fact the implementation of COE-CAS’s basic concept: that human resources, as a “regional public good,” should be provided by the “region.” The three following programs were implemented.

1) “Organic Development of Internationally Collaborations” (in cooperation with the “Initiative” of Asia Pacific Studies)

2) “Consortium of Five Asian Major Graduate Schools of Political Science” (in cooperation with the “Initiative” of Political Science)

3) “Collaboration for Developing Human Resources for Those Who Intend to Design the East Asian Community” (COE-CAS)

【Outline of the Program of Human Resource Development in Asia, Centered Around COE-CAS 2006】



■ Tangible Outcomes of COE-CAS 4—Establishment of Organization for Asian Studies (OAS) of Waseda University, etc.

The fourth tangible accomplishment is the fact that the activities of COE-CAS were institutionalized within the university-wide research organizations and curriculums of graduate schools. Fortunately, the research/academic activities of COE-CAS made possible the establishment of the Waseda University Organization for Asian Studies (OAS), which implements Asian studies on a university-wide scale. This organization will surely take over the activities and assets of our school’s two COEs (COE-CAS and Research Center for Enhancing Local Cultures in Asia in the Graduate School of Letters, Arts, and Sciences), and will

develop them further in the future.

#### Waseda University-- Organization for Asian Studies

established in April, 2006

Director:	Takayasu Okushima (former president of Waseda University, professor, School of Law)
Administrative office:	Director, 4 staff
Full-time researchers:	6 (2 professors, 1 associate professor, 3 research associates)
Steering Committee:	16 (full-time faculty members at Waseda University)
Facility:	Waseda University Building No.9, 9th floor
Annual research budget:	¥50,000,000 (2006) (excluding administrative costs and labor costs)
Research work:	Promoting research projects, seminars, building Asian research / educational networks
Reporting of results:	<i>Waseda Asia Review</i> (semi-annual) in Japanese <i>Waseda Journal of Asian Studies</i> in English

#### Graduate School Omnibus Course

Graduate School cross-seminar	“Contemporary Asian Studies” from 2004 to 2006
Organization for Asian Studies	“Contemporary China Studies from 2007
Graduate School of Political Science	“Omnibus Course: Contemporary Asian Studies from 2007



## Reference I : Contents of Japanese Outcome

*the four volumes of “Series for Designing an East Asian Community”*

Pub. By Iwanami Shoten, Japan

## Volume 1. The Formation of a New Region [ed. Takehiko Yamamoto/Satoshi Amako]

## Overview

Kazuko Mori – Contemporary Asian Studies and “East Asian Community”

## I. Approaches from the Region

The ASEAN Experience and East Asia, Yoneji Kuroyanagi

The Formation of Sub-regions: The Experiment of the Mekong-River Complex,  
Masaya Shiraishi

China’s Regional Diplomacy and the East Asian Community, Rumi Aoyama

South Korea’s Concept of an East Asian Community and Its National Security  
Interest, Hideya KurataJapan’s Diplomacy for Building an East Asian Community and its Concept of  
Community, Takehiko Yamamoto

## II. Approaches from Issues

Nationalism and Regionalism in Asia, Satoshi Amako

The Issues of the ASEAN Regional Forum (ARF), Koichi Sato

The formation of a New Region in East Asia and "Locality", Hidetoshi Taga

Political Development and Regionalism in Asia, Yoshiharu Tsuboi

Energy Resource Diplomacy in Northeast Asia, Kenji Horiuchi

## III. Some Theoretical Approaches for Community Building

The Theories of Regional Integration and an “East Asian Community”, Yoshinobu  
YamamotoDebating Asian Regionalism and the ‘Imagined Community’ of East Asia, Amitav  
Achary,Non-traditional Security Issues and Regional Collaboration in East Asia, Tsuneo  
Akaha

## Volume 2. Prospect for the Economic Community [ed. Shujiro Urata/Yukiko Fukagawa]

## Overview

The Current Situation and Issues of Regional Collaborations in East Asia, Shujiro  
Urata

## I. Cross-Sectional Analysis

Trade/Investment and Economic Integration in East Asia, Tran Van Tho and  
Kunichika Matsumoto

New Business Models of Japanese Enterprises, Toshihiko Kinoshita

Intra-regional Macroeconomic Linkages in East Asian, Katsuhide Takahashi

Global Imbalances and the Asian Economy, Mitsuru Takeuchi

## II. Analysis by Field

Corporate Governance Reform and Financial Systems, Megumi Shuto

Worsening Environmental Problems and Solutions, Hiroyuki Taguchi

Current Situation of Energy Problems and Collaborative Frameworks, Reji Takeishi

Agricultural/Food Issues in East Asia, Masahiko Genma

East Asian Integration and Least Developed Countries, Tran Van Tho

The Indian Economy’s Approach toward East Asia, Makoto Kojima

Economic Integration in East Asia : The Potential for Institutional Convergence ,  
Yukiko Fukagawa

Volume 3. Intra-regional Migration and Social Transformation [ed. Jun Nishikawa / Kenichiro Hirano]

Overview

Factors Promoting East Asian Cooperation, Jun Nishikawa and Kenichiro Hirano

I. Ideology of East Asian Community – Historical Continuity and Creativity

Challenges on the Problem of the Recognition of History in East Asia, Liu Jie

Genealogy of the Ideas of “Return to Asia” in Japan and Neighboring Asia, Kenichi  
Goto

The Expansion and Transformation of Asian Studies in the 1940s, Hideo Kobayashi

II. East Asian Regional Exchanges and the Formation of a New Culture

International Migration in East Asia, Kenichiro Hirano

Crossborder Movements by Koreans, Kyungsoo Rha

Movements of International Students and Community Formation, Miki Sugimura

The Sharing of Popular Culture in East Asia, Saya Shiraishi

International Educational Exchanges to Create an East Asian Region, Kazuo  
Kuroda

III. Public Potential for the Creation of an East Asian Space

Peace and Public Space in East Asia, Jun Nishikawa

The Rise of the Urban Middle Class and the Formation of New Identities, Shigehito  
Sonoda

Civil Society and the Formation of a Human Rights Regime, Akio Kawamura

Democratization and Civil Society in East Asia, Kiho Yi

Volume 4. Illustrated-Analysis of East Asian Networks [ed. Kazuko Mori/Yuji Morikawa]

- Basic Data

- Exchanges: I. Economics, II. Political Exchanges, III. Society/Culture: From Migration to  
Exchanges

- Analysis: Analysis of Complex Networks in East Asia

## Reference II :Contents of English Outcome

MORI Kazuko and HIRANO Kenichiro of Waseda COE-CAS, eds.

### *A New East Asia: Toward a Regional Community*

Pub. by NUS Press , Singapore,2007

#### Contents

Foreword

by HIRANO Kenichiro, Waseda University

Designing an East Asian Community: Challenges to Contemporary Asian Studies

by MORI Kazuko, Waseda University

Multilayered Postcolonial Historical Space: Indonesia, the Netherlands, Japan and East Timor

by GOTO Ken'ichi, Waseda University

Remapping East Asia as an International Society: The Discourses on East Asia and Asian Identity in Contemporary Korea

by JANG In-Sung, Seoul National University

National Identities in East Asia in the Shadow of Globalization

by Gilbert Rozman, Princeton University

Japan and East Asia: How Do We Meet the Globalization Challenge Together?

by YAMAZAWA Ippei, KINOSHITA Toshihiko, C.H.Kwan

The Changing Patterns of International Trade in East Asia

by URATA Shujiro, Waseda University

Chinese Diplomacy in the Multimedia Age

by AOYAMA Rumi, Waseda University

Non-traditional Security Cooperation for Regionalism in Northeast Asia

by Tsuneo Akaha, Monterey Institute of International Affairs

Development and Happiness: Learning to Attain 'Spiritual Wealth' from Asia

by NISHIKAWA Jun, Waseda University

National Identities in East Asia in the Shadow of Globalization

by Gilbert Rozman, Princeton University

## Reference III : List of Working Papers

	Name	Title	Date of Publication
Vol. 1	Kazuko Mori	Integrative and Disruptive Forces in Contemporary China	2003/3
Vol. 2	Ken'ichi Goto	Multilayered Postcolonial Historical Space : Indonesia, the Netherlands, Japan and East Tior	2003
Vol. 3	Kazuko Mori	East Asian Security and Its Non-East Asian Factors	2003
Vol. 4	Satoshi Amako	Political Transition in China Under Economic and Social Reform	2003
Vol. 5	Kenichiro Hirano	Interactions among Three Cultures in East Asian International Politics during the Late Nineteenth Century: Collating Five Different Texts of Huang Zun-xian's "Chao-xian Ce-lue" (Korean Strategy)	2003
Vol. 6	Hideo Kobayashi	Responses of South Korea, Taiwan and Japan to the Hollowing Out of Industry	2003
Vol. 7	Tsuneo Akaha	Non-traditional Security Cooperation for Regionalism in Northeast Asia	2004/01
Vol. 8	Hiroyuki Taguchi	The Post-crisis Exchange Rate Management in Selected East Asian Countries- Flexibility of Exchange Rate and Sensitivity to Inflation Rate ?	2003
Vol. 9	Nishikawa Jun	Development and Happiness - Learning the "Spiritual Wealth" from Asia -	2004/03
Vol. 10	Hideo Kobayashi	THE RISE OF CHINA AND THE TRANSFORMATION OF THE ASIAN ECONOMY	2004
Vol. 11	Ngo Trinh Ha	Catching-up Industrial Development of East Asian Economies and its Application to Vietnam	2004/03
Vol. 12	Eiji Murashima	第二次世界大戦期間の日泰同盟及泰国華僑	2005/01
Vol. 13	Masaya Shiraishi	The Nan'you Gakuin: A Japanese Institute in Saigon from 1942-1945	2004/11

Vol. 14	Masaya Shiraishi	The Vietnamese Phuc Quoc League and the 1940 Insurrection	2004/11
Vol. 15	Seung Hyok LEE	Shifting of Japan's National Security Norm And the Issue of North Korean Abduction of Japanese, 2002-2004	2004/11
Vol. 16	AOYAMA Rumi	Chinese Diplomacy in the Multimedia Age: Public Diplomacy and Civil Diplomacy	2004/12
Vol. 17	AOYAMA Rumi	Ambivalent Images of the United States	2005/02
Vol. 18	Yoshiharu Tsuboi	Government, Party, Military and Business Relations in Vietnam: Focusing on a Comparison with China	2005/02
Vol. 19	Yoshiharu Tsuboi	Future Development of Japan — Vietnam Relations	2005/02
Vol. 20	Yoshiharu Tsuboi	Corruption in Vietnam	2005/03
Vol. 21	Nishikawa Jun	Human Beings and Development — Toward a World where Every Life can Live Together. The Way of Endogenous Development —	2005/03
Vol. 22	Eiichi Motono	The Change of Historical Character of Anglo-Chinese Joint Firms in Late Qing and Early Republican China, 1860 to 1927	2005/05
Vol. 23	Shinichi Tanigawa	The Cultural Revolution and Educational Stratification: Revolution in Education Revisited	2005/07
Vol. 24	李 京錫	アジア主義の理念及びその成立の客観的基礎 —尾崎秀美の東亜協同体論を手がかりに—	2005/12
Vol. 25	加藤 恵美	国際移動者の市民性—イギリスの統合アプローチを例に	2005/07
Vol. 26	堀内 賢志	1990年代における中露国境地域間協力とロシア極東の地方政府—中央・地方関係の観点から—	2005/07
Vol. 27	Katsuyuki Takahashi	The Peace Movement in Thailand after the Second World War: The Cases in Bangkok, the Provinces, and Local Chinese Society	2005/08
Vol. 28	Hideo Kobayashi	Imperial Japan and Total War System	2006/01
Vol. 29	Yoshiharu Tsuboi	The Unique Character of Nationalism in Asian Countries and Cultural Policies for Avoiding Conflicts	2006/02

Vol. 30	Shujiro Urata	The Changing Patterns of International Trade in East Asia	2006/10
Vol. 31	倉田 徹	東アジア文化の構築	2006/12
Vol. 32	平川 幸子	40 代日本人の中国観を探るー「ジャパン・アズ・ナンバーワン時代」の若者たちは、中国が苦手?ー	2006/12
Vol. 33	金 燦錫	東アジアの共通情報基盤と相互理解	2006/12
Vol. 34	Ken'ichi Goto	Japan's Southern Policy in the Interwar Period and Hayashi Kyujiro	2006/12
Vol. 35	Shigeto Sonoda	New Middle Class in Confucian Asia: Its Socio-cultural Background and Socio-political Orientations in Comparative Perspective	2006/12
Vol. 36	徐 顕芬	日本・中国における日中関係研究レビュー (1990-2005 年)	2007/1
Vol. 37	KAZUO KURODA	International Student Mobility for the Formation of an East Asian Community	2007/1
Vol. 38	大内 哲也	国際的人権保障体制とアジアの地域的人権保障	2007/1
Vol. 39	野口 真広	台湾人から見た台湾総督府ー 適応から改革へ向かう台湾人の政治運動についてー	2007/1
Vol. 40	森川 裕二	東アジアの地域変動ーCOE-CAS 政治交流データの応用と分析適用可能性の検証ー	2007/1
Vol. 41	AOYAMA Rumi	China's Public Diplomacy	2007/2
Vol. 42	Mitsuhide Shiraki	Role of Japanese Expatriates in Japanese Multinational Corporations: From the Perspective of the "Multinational Internal Labor Market"	2007/2
Vol. 43	Yoshiharu Tsuboi	20 Years After Doi Moi Policy	2007/2
Vol. 44	Kazuko Mori	New Relations between China and Japan: A Gloomy, Frail Rivalry	2007/3
Vol. 45	Kenichiro Hirano	Professor Schwartz's Influence on the Japanese Studies of Yan Fu in Japan	2007/3

Vol. 46	Kazuko Mori	Designing an East Asian Community : Challenges to Contemporary Asian Studies	2007/3
Vol. 47	毛里 和子	早稲田大学 21 世紀 COE「現代アジア学の創生」最終成果報告 概要	2007/3

## Reference IV : List of Recipients of Doctoral Degrees (FY2002-2006)

No.	Graduate School	Year received	Name	Title of dissertation
1	Graduate School of Political Science	2002	<b>Yang Zhihui</b>	The “Yoshida Letters” Revisited: The Starting Point of Post WWII Japanese Diplomacy
2	Graduate School of Political Science	2005	<b>Tomoaki Ishi</b>	The Socialist Chinese State and Labor Unions: The Process of Formation of the Chinese People’s Political Consultative System
3	Graduate School of Economics	2004	<b>Takeshi Mita</b>	Studies on Hajime Kawakami: An Examination from the History of Economic and Thought Exchanges between Japan and China
4	Graduate School of Economics	2005	<b>Masashi Yomoda</b>	The Pacific Region Economic Bloc and the Economic Development of Asia
5	Graduate School of Social Science	2005	<b>Hiroyuki Taguchi</b>	The East Asian Currency Crisis and Exchange Rate Management
6	Graduate School of Social Science	2005	<b>Reiji Takeishi</b>	Environmental Measures and Industrial Development in Asian Countries
7	Graduate School of Social Science	2005	<b>Kenji Horiuchi</b>	External Cooperation among Local Governments in the Russian Far East Region and Relations between the Central and Local Governments in the 1990s: Focusing on the Relationship with China in the Khabarovsk Region and the Maritime Region
8	Graduate School of Social Science	2006	<b>Reiko Kaneda</b>	Social Thought of Kosuke Tomeoka and Magosaburo Ohara: A Consideration of Social Reform Practices in Japan’s Modernization Process
9	Craduate School of Law	2002	<b>Gu Zhuxuan</b>	Acceptance of the Civil Code and “Dynamic System” in China: Reexamination of Approaches on the Acceptance of Law in Japan and China
10	Craduate School of Law	2002	<b>Liu Di</b>	Federalist Thought in Modern China
11	Craduate School of Law	2005	<b>Shen Jun</b>	Land Issues in Urban Construction in China: Focusing on Suzhou
12	Craduate School of Law	2006	<b>Hu Guanghui</b>	Comparative Legal Study on the International Commercial Arbitration System in China



13	Graduate School of Asia-Pacific Studies	2003	<b>Kumiko Sakamoto</b>	Social Development, Culture and Participation: Toward Theorizing Endogenous Development in Tanzania
14	Graduate School of Asia-Pacific Studies	2003	<b>Takayo Takahashi</b>	The Identity and Frontier Character of Okinoerabujima Island
15	Graduate School of Asia-Pacific Studies	2004	<b>SANUSI, Zainal Abidin</b>	Technology Transfer and the Role of Coordination: Case of Japanese Firms in Malaysia
16	Graduate School of Asia-Pacific Studies	2004	<b>Ngo Trih Ha</b>	Catching-up Industrial Development in East Asia
17	Graduate School of Asia-Pacific Studies	2004	<b>UELENI, Talaivosa</b>	Ecotourism Development in the South Pacific Islands: A sustainable alternative for mass tourism in Fiji islands
18	Graduate School of Asia-Pacific Studies	2004	<b>Gui Yongtao</b>	Restoring the Dialogue with Japan-Edwin O. Reischauer and the U.S.-Japan Intellectual Relations
19	Graduate School of Asia-Pacific Studies	2005	<b>Misuzu Uehara</b>	Ownership and Management of Hong Kong Family Businesses
20	Graduate School of Asia-Pacific Studies	2005	<b>Kyoko Funada</b>	Historical Consideration of Language Ability in Indonesia and Malaysia after Independence
21	Graduate School of Asia-Pacific Studies	2005	<b>JIMENEZ, Elegia Carolina</b>	Understanding modern charismatic leadership: Hugo Chavez and the Peaceful Revolution in Contemporary Venezuelan Politics
22	Graduate School of Asia-Pacific Studies	2006	<b>Shi Huaqiang</b>	Non-Performing Loans Resolution: The Case of China
23	Graduate School of Asia-Pacific Studies	2006	<b>Miki Honnda</b>	UN Economic Sanctions and Various Humanitarian Issues: Groping for “ Smart Sanctions”
24	Graduate School of Asia-Pacific Studies	2006	<b>HOSNI, Hussen Bin Md Saat</b>	Strategic Human Capital Management and Innovation in the Malaysia’ s Public Sector: A Study of Five Agencies under the Ministry of Finance

25	Graduate School of Asia-Pacific Studies	2006	<b>CHAY, Navuth</b>	Toward an Effective International Development Assistance: Grassroots Level Community in Cambodia
26	Graduate School of Asia-Pacific Studies	2006	<b>HUANG, Shihping Kevin</b>	Outsourcing from Evolutionary Economics Perspective: The Impact of Economic Change and Technology
27	Graduate School of Asia-Pacific Studies	2006	<b>Wang Yuan</b>	Students Who Returned after Studying Abroad in the Power Structure of the Republic of China: Focusing on the Nanking National Government (1928-1949)
28	Graduate School of Asia-Pacific Studies	2006	<b>Atsushi Sugano</b>	Cultural Policies and National Integration in Taiwan (1945-1987): A Historical Consideration of “De-Japanization,” “Sinicization,” and “Mainlandization”
29	Graduate School of Asia-Pacific Studies	2006	<b>Tatsumi Tamakoshi</b>	Study on the International Spread of Japanese Movies: Film Exchanges between Japan and China and the Work of Nagamasa Kawakita and Yasuyoshi Tokuma
30	Graduate School of Asia-Pacific Studies	2006	<b>Albena Vidinova Simeonova</b>	Japan Through Russian Eyes (1855-1905) -Intellectuals' Viewpoints-
31	Graduate School of Asia-Pacific Studies	2006	<b>Yayoi Suzuki</b>	Assistance and Social Development in Rural Bangladesh: Impacts on Residents in the Comilla District
32	Graduate School of Asia-Pacific Studies	2006	<b>Md Monir Hossain Moni</b>	Japanese Foreign Direct Investment(FDI) in South Asia: Necessity and Rationale for an Evolving New Role Shouldered by Multinational Corporations(MNCs) in the Challenging Epoch of Globalization
33	Graduate School of Asia-Pacific Studies	2006	<b>Wang Chuanyang</b>	Policy Issue, Stages, and Policymaking: Analysis on Policymaking Process of Japan's First Yen Loan to China
34	Graduate School of Asia-Pacific Studies	2006	<b>Song Wei</b>	American Hegemony and Postwar Regional Integration: The Evolution of Interest and Strategy

\* One student under examination

	Graduate School of Political Science		<b>Toru Ishida</b>	A Study on the Negotiations for the Reopening of the Japan-Korea Relationship during the Modern Transition Period: Rationales of Japan and Korea over the Reopening of Diplomatic Relations
--	--------------------------------------	--	--------------------	---